

枚方市男女共同参画に関する 市民アンケート調査結果報告書

令和7(2025)年3月

枚方市

I 調査の概要	3
1 調査の目的	3
2 調査対象	3
(1) 一般	3
(2) 若年	3
(3) 小学生から中学生	4
3 回収状況	4
(1) 一般	4
(2) 若年（有効標本回収数）	4
(3) 小学生・中学生（有効標本回収数）	5
4 報告書の見方	5
II 調査結果の概要	5
1 一般調査	5
(1) 回答者の属性	5
(2) 男女の平等感と役割分担について	6
(3) 家庭生活（子育て・介護）について	8
(4) 職業生活について	9
(5) 仕事と家庭などの関わりについて	9
(6) 暴力・人権について	10
(7) 困難な問題を抱える女性に関する法律について	12
2 若年調査	12
(1) 回答者の属性	12
(2) 男女の平等感と役割分担について	13
(3) 暴力・人権について	14
(4) 困難な問題を抱える女性に関する法律について	16
3 小中学生調査	16
(1) 回答者の属性	16
(2) 家庭生活について	16
(3) 性別による役割分担の考えについて	17
(4) 暴力・人権について	19
(5) 将来について	19
III 調査結果	20
1 一般調査	20
(1) 回答者の属性	20
(2) 男女の平等感と役割分担について	24
(3) 家庭生活（子育て・介護）について	51
(4) 職業生活について	60
(5) 仕事と家庭などの関わりについて	74
(6) 暴力・人権について	86

(7) 困難な問題を抱える女性に関する法律について	136
(8) 自由意見	138
2 若年層調査	149
(1) 回答者の属性	149
(2) 男女の平等感と役割分担について	151
(3) 暴力・人権について	161
(4) 困難な問題を抱える女性に関する法律について	204
(5) 自由意見	205
3 小学生・中学生調査	211
(1) 回答者の属性	211
(2) 家庭生活について	212
(3) 性別による役割分担の考えについて	217
(4) 暴力・人権について	238
(5) 将来について	254
IV 調査票	258
1 一般	258
2 若年	272
3 中学生	280
4 小学生	285

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、第4次枚方市男女共同参画計画（令和8（2026）年度～令和17（2035）年度）の策定に向けて、市民の男女共同参画に関する意識や現状を把握するために実施しました。

2 調査対象

(1)一般

- ①調査地域：枚方市全域
- ②調査対象：市内在住の満23歳以上の男女
- ③標本数：2,000人（女性1052人、男性968人）
- ④有効回収数：683人（回収率34.1%）
- ⑤抽出方法：住民基本台帳に基づき、対象者を20歳代、30歳代、40歳代、50歳代、60歳以上の5区分に分け、それぞれ400人ずつとしました。また、各区分ごとの地域（市内を10地区に分類）・男女比による配分は人口比により按分し、無作為抽出しました。
- ⑥調査方法：Web調査及び郵送法（調査票の送付と回収及び葉書による督促状1回の送付）
- ⑦調査期間：令和6（2024）年11月8日から11月30日
- ⑧調査項目：
 - ア 回答者の属性
 - イ 男女の平等感と役割分担について
 - ウ 家庭生活（子育て・介護）について
 - エ 職業生活について
 - オ 仕事と家庭などの関わりについて
 - カ 暴力・人権について

(2)若年

- ①調査地域：枚方市全域
- ②調査対象：市内在住の16歳以上22歳まで（高校生、大学生を含む）
- ③標本数：2000人（女性985人、男性1015人）
- ④有効回収数：340人（回収率17%）
- ⑤調査方法：Web調査（郵送による調査案内の送付と葉書による督促状1回の送付）
- ⑥調査期間：令和6（2024）年11月8日から11月30日
- ⑦調査項目：
 - ア 回答者の属性
 - イ 男女の平等感と役割分担について
 - ウ 家庭生活（子育て・介護）について
 - エ 職業生活について

オ 仕事と家庭などの関わりについて

カ 暴力・人権について

(3)小学生から中学生

①調査地域：枚方市全域

②調査対象：市立小学校に通う小学5年生／市立中学校に通う中学2年生

③標本数・有効回収数：小学生 1267 人／中学生 875 人

④調査方法：学校を通じた調査票の配布・回収

小学校 44 校、中学校 19 校

⑤調査期間：令和 6（2024）年 10 月から 11 月

⑥調査項目：

ア 回答者の属性

イ 家庭生活について

ウ 性別による役割分担の考えについて

エ 暴力・人権について

オ 将来について

3 回収状況

(1)一般

	標本数	有効回収数	有効回答率
全体	2,000 人	683 人	34.2%
女性	1052 人	421 人	40.0%
男性	948 人	248 人	26.3%
女性／男性では答えられない	-	4 人	-
答えない	-	7 人	-
無回答	-	3 人	-

(2)若年(有効標本回収数)

	高校生	大学生	学生以外
全体	134 人	164 人	42 人
女性	67 人	95 人	20 人
男性	63 人	68 人	21 人
女性／男性では答えられない	0 人	0 人	1 人
答えない	4 人	1 人	0 人

（高校生には高専生を、大学生には専門学校やその他学校を含みます）

(3)小学生・中学生（有効標本回収数）

	小学生	中学生
全体	1267 人	875 人
女性	632 人	456 人
男性	582 人	399 人
女性／男性では答えられない	12 人	2 人
答えない	41 人	18 人

4 報告書の見方

- ・回答は各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（％）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答または回答数の少ない属性の回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・若年の属性では高校生には高専生を、大学生には専門学校やその他学校を含みます
- ・調査表内で経年比較をしている箇所は、本市が令和元（2019）年及び平成26（2014）年に行った「枚方市男女共同参画に関する市民アンケート調査」の結果と比較しています。

Ⅱ 調査結果の概要

1 一般調査

(1)回答者の属性

①性別

a あなたの性別は。（○は1つ）（P.20）

「女性」が61.6%で最も高く、次いで「男性」が36.3%、「答えない」が1.0%と続いています（図表Ⅲ-1-1-1）。

②年齢

b あなたの年齢は。（記入日の時点で）（○は1つ）（P.20）

女性では「50～59 歳」が24.9%で最も高く、次いで「40～49 歳」が21.1%、男性では「70 歳以上」が20.2%が最も高く、次いで「50～59 歳」が19.4%と続いています（図表Ⅲ-1-1-2）。

③結婚しているか

c あなたは結婚（事実婚またはパートナーと同居）していますか。（○は1つ）（P.21）

「結婚している」が 女性 68.9%、男性 70.6%で最も高く、次いで「結婚していない」が 女性 20.2%、男性 24.6%、「結婚したが、離婚または死別した」が女性 10.7%、男性 4.8%と続いています（図表Ⅲ-1-1-3）。

④回答者・配偶者の職業

d あなたの仕事は。配偶者がおられる方は配偶者の欄も記入してください。（○は1つずつ）（回答者の職業 P.21、配偶者の職業 P.22）

回答者の職業については、女性は「非正規雇用で働いている（契約社員・派遣社員・パートタイマー・アルバイトなど）」が 35.2%で最も高く、次いで「正規雇用で働いている」の 31.6%、男性は「正規雇用で働いている」が 57.3%で最も高く、次いで「無職（家事専業をのぞく）」が 16.1%と続いています。

また、配偶者の職業については、女性は「正規雇用で働いている」が 59.0%で最も高く、次いで「自営業・自由業」が 12.4%、男性は「非正規雇用で働いている（契約社員・派遣社員・パートタイマー・アルバイトなど）」が 26.9%で最も高く、次いで「正規雇用で働いている」が 25.1%と続いています（図表Ⅲ-1-1-4、図表Ⅲ-1-1-5）。

⑤子どもがいるか

e あなたに子どもはいますか。（別居を含む）（○は1つ）（P.22）

「いる」が女性 68.9%、男性 65.3%、「いない」が女性 30.6%、男性 33.5%となっています（図表Ⅲ-1-1-6）。

⑥世帯構成

f あなたの現在の世帯構成は、次のどれですか。（○は1つ）（P.23）

「親と子の二世帯世帯」が 52.8%で最も高く、次いで「夫婦（パートナー）のみの世帯」が 27.6%、「1人世帯」が 12.8%と続いています（図表Ⅲ-1-1-7）。

(2)男女の平等感と役割分担について

①男女がどの程度平等になっていると思うか

問1 次の（1）～（8）の分野で、あなたは、男女がどの程度平等になっていると思いますか。それぞれあてはまる番号に○をつけてください。（○は各項目に1つ）（P.24）

男女の平等感について、全体で見ると『平等である』が多かったのは「学校教育の場」で女性 49.6%、男性 57.3%となっています。次いで「地域活動の場」で女性 31.1%、男性 44.4%となっています。どの場でも『男性優遇』が『女性優遇』より多くなっていますが、その中でも特に『男性優遇』だと考えられている場は、「政治の場」で『男性優遇派（『男性が優遇されている』と『どちらかといえば男性が優遇されている』の合計）』は女性 88.4%、男性 75.8%、『女性優遇派（『女性が優遇されている』と『どちらかといえば女性が優遇されている』の合計）』は女性 1.7%、男性 3.6%、「社会通念・慣習・しきたりなど」で『男性優遇派』は女性 84.1%、男性 71.4%、『女性優遇派』は女性 1.4%、男性 6.8%となり、男女での大きな

差が見られます（図表Ⅲ-1-2-1～図表Ⅲ-1-2-17）。

②性別による役割分担の考えについて

問2 「男は仕事、女は家庭」という男女の役割分担について、あなたはどのように思いますか。（○は1つ）（P.33）

男女の役割分担について、全体で見ると『同感しない派（『同感しない』と『どちらかといえば同感しない』の合計）』は女性 78.6%、男性 60.9%、『同感する派（『同感する』と『どちらかといえば同感する』の合計）』は女性 18.5%、男性 32.6%と『同感しない派』が大きく上回っています（図表Ⅲ-1-2-18）。

③性別による役割分担を支持する理由

（問2で「1. 同感する」「2.どちらかといえば同感する」とお答えの方に）問2－1 そう思う主な理由は何ですか。（○は1つ）（P.36）

性別による役割分担を支持する理由については、男女とも「男性は仕事、女性は家事・育児に向いているから」（女性 39.7%、男性 24.7%）が最も高く、また男性は「夫婦の役割をはっきりと分ける方が仕事も家庭もうまくいくから」（男性 24.7%）も同率で最も高くなっています（図表Ⅲ-1-2-24）。

④子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいという考え方について

問3 「子どもが小さいうちは、母親は仕事をしないで、育児に専念したほうがよい」という考え方について、あなたはどのように思いますか。（○は1つ）（P.38）

子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいという考え方について、『同感する派（『同感する』と『どちらかといえば同感する』の合計）』は女性 42.8%、男性 56.4%、『同感しない派（『同感しない』と『どちらかといえば同感しない』の合計）』は女性 51.8%、男性 39.1%と女性と男性で違いが見られます（図表Ⅲ-1-2-26）。

⑤子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいと思う理由

（問3で「1. 同感する」「2.どちらかといえば同感する」とお答えの方に）問3－1 そう思う主な理由は何ですか。（○は1つ）（P.41）

子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいと思う理由については、男女とも「子どもの健全な成長に必要なだから」（女性 48.3%、男性 57.1%）が最も高く、次いで「自分自身がそうした、そうされたから」（女性 18.9%、男性 12.1%）となっています（図表Ⅲ-1-2-32）。

⑥法律等の認知度

問4 次の（1）～（14）の言葉について、それぞれあてはまる番号に○をつけてください。（○は各項目に1つ）（P.43）

法律等の認知度について、全体で見ると『見たり聞いたりしたことがある』のは、「男女雇用機会均等法」が 94.9%で最も高く、次いで「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）」が 89.5%、「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律（育児・介護休業法）」が 84.9%と続いています。『知らない』が高いのは「枚方市男女共生フロア・ウィル」87.4%、「積極

的改善措置（ポジティブ・アクション）」83.1%、「枚方市男女共同参画推進条例」75.0%となっています（図表Ⅲ-1-2-34～図表Ⅲ-1-2-48）。

(3)家庭生活(子育て・介護)について

①家庭生活の分担について

問5 あなたの家庭で主に家庭での仕事（家事、子育て、介護）をしているのは誰ですか。（○は1つ）（P.51）

家庭での仕事を分担しているのは女性では「本人（配偶者あり）」で57.6%、男性では「配偶者」で58.4%でした。次いで「本人（配偶者なし）」で女性16.7%、男性15.1%でした（図表Ⅲ-1-3-1）。

②男性の育児休業取得をどう思うか

問6 育児を行うために、法律に基づき育児休業を取得できる制度があります。この制度を活用して、男性が育児休業を取得することについてどう思いますか。（○は1つ）（P.52）

男性の育児休業取得について、『取得した方がよい派（『取得した方がよい』と『どちらかという取得した方がよい』の合計）』は女性79.6%、男性79.8%と、男女で大きな差は見られません（図表Ⅲ-1-3-3）。

③男性が育児休業を取得しない方がよいと思う理由

問6-1 男性が育児休業を取得しない方がよいと思う理由は何ですか。（○は2つまで）（P.55）

男性が育児休業を取得しない方がよいと思う理由については女性では「収入が減るため」（52.2%）、男性では「育児に関する知識や情報が乏しいため」（33.3%）が、次いで女性では「育児に関する知識や情報が乏しいため」（26.1%）、男性では「仕事が忙しいため」「育児休業等の制度が不十分または利用しにくい」「収入が減るため」がともに25.0%でした。（図表Ⅲ-1-3-8）。

④男性の介護休業取得をどう思うか

問7 介護を行うために、法律に基づき介護休業を取得できる制度があります。この制度を活用して、男性が介護休業を取得することについてどう思いますか。（○は1つ）（P.57）

男性の介護休業取得について、『取得した方がよい派（『取得した方がよい』と『どちらかという取得した方がよい』の合計）』は女性87.9%、男性83.9%と、男女で大きな差は見られません（図表Ⅲ-1-3-7）。

⑤男性が介護休業を取得しない方がよいと思う理由

問7-1 男性が介護休業を取得しない方がよいと思う理由は何ですか。（○は2つまで）（P.59）

男性が介護休業を取得しない方がよいと思う理由については、女性・男性いずれも「収入が減るため」が女性50.0%、男性40.0%で最も高くなっています（図表Ⅲ-1-3-15）。

(4)職業生活について

①職場の男女差別

問8 あなたの今の職場、あるいは、元職場では、次の(1)～(9)について、性別によって差がある(あった)と思いますか。(○は各項目に1つ)(P.60)

職場での男女差について、全体で見ると『男性が優遇されている』と『女性が優遇されている』の差が大きかったものは「管理職への登用」(女性優遇 2.2%、男性優遇 45.1%)、「昇進昇格」(女性優遇 2.6%、男性優遇 40.3%)となっています。『平等である』は「研修(機会・内容)」(64.6%)、「募集・採用」(52.7%)で割合が高くなりました。「休暇の取得しやすさ」(女性優遇 24.6%、男性優遇 3.4%)では女性優遇が男性優遇より割合が高くなっています(図表Ⅲ-1-4-1～図表Ⅲ-1-4-11)。

②男女がともに働きやすい社会の環境をつくるために必要だと思うこと

問9 男女がともに働きやすい社会の環境をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○はいくつでも)(P.71)

男女がともに働きやすい社会の環境をつくるために必要だと思うことについては、全体で見ると「育児休業や介護休業をだれもが利用しやすくする」が77.5%で最も高く、次いで「男女で家事労働(育児・介護含む)を平等に分担する」が66.9%、「保育所や留守家庭児童会室などの育児環境を充実し、だれもが利用できるようにする」が66.8%と続いており、男女別でみると、女性・男性いずれも「育児休業や介護休業をだれもが利用しやすくする」(女性78.4%、男性77.0%)の割合が最も高くなっています(図表Ⅲ-1-4-12)。

(5)仕事と家庭などの関わりについて

①仕事と家事に費やす時間

問10 あなたが1日のうちで仕事と家事に費やす平均時間はどの程度ですか。(○は1つずつ)(P.74)

仕事 (ア) 平日

仕事に費やす時間について、平日では「8時間以上(10時間以上12時間未満、12時間以上含む)」が女性36.3%、男性57.7%となっており、女性・男性いずれも「8時間以上10時間未満」の割合が最も高くなっています(図表Ⅲ-1-5-1)。

仕事 (イ) 休日

仕事に費やす平均時間について、休日では、女性・男性いずれも「ほとんどない」(女性57.5%、男性55.2%)の割合が最も高くなっています(図表Ⅲ-1-5-4)。

家事 (ア) 平日 家事に費やす時間について、平日では「30分未満(ほとんどない含む)」が女性9.8%、男性41.2%と大きな差が見られます。女性は「3時間以上4時間未満」が18.1%で最も高く、男性は「30分以上1時間未満」が25.8%で最も高くなっています(図表Ⅲ-1-5-7)。

家事 (イ) 休日

家事に費やす時間について、休日では女性は「5時間以上」が23.8%で最も多く、男性は「1時間以上2時間未満」が24.2%で最も高くなっています(図表Ⅲ-1-5-11)。

(6)暴力・人権について

①恋人同士の間でのDVだと思ふ行為

問 11 恋人同士の間で次の（１）～（６）のようなことが行われた場合、あなたはこれらが暴力にあたると思いますか。（○は各項目に１つ）（P.86）

恋人同士の間でのDVだと思ふ行為について、「⑥相手の合意を得ないで、一方的に性行為を行う」が『どんな場合でも暴力に当たる』と思ふのは女性 92.6%、男性 89.1%で最も高く、「① 相手が自分の言うとおりにしなければ、不機嫌になる」が『暴力に当たるとは思わない』のは女性 22.3%、男性 29.0%で最も高くなっています（図表Ⅲ-1-6-1～図表Ⅲ-1-6-19）。

②交際相手からのDVの経験

問 12 あなたは、交際相手から、次の（１）～（３）のようなことをされたことがありますか。（○は各項目に１つ）（P.96）

交際相手からのDVの経験について、「①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた」ことがあるのは女性 15.2%、男性 9.3%、「②人格を否定するような暴言、無視する、なぐるふりをして脅すなどの精神的ないやがらせを受けた」ことがあるのは女性 23.5%、男性 12.5%、「③あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された」ことがあるのは女性 20.2%、男性 2.8%となっています（図表Ⅲ-1-6-20～図表Ⅲ-1-6-29）。

③配偶者間でDVだと思ふ行為

問 13 配偶者間で次の（１）～（10）のようなことが行われた場合、あなたはこれらが暴力にあたると思いますか。（○は各項目に１つ）（P.102）

配偶者間でDVだと思ふ行為について、「⑧なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたり、ひきずりまわしたりする」が『どんな場合でも暴力に当たる』と思ふのは女性 97.4%、男性 95.6%で最も高くなっています。「④実家の親、兄弟・姉妹、友人との付き合いをいやがったり監視したり、外出を制限したりする」が『どんな場合でも暴力に当たると思う』のは女性 74.6%、男性 60.1%で男女での差が見られます（図表Ⅲ-1-6-30～図表Ⅲ-1-6-60）。

④配偶者からのDVの経験

問 14 あなたは、過去１年間に配偶者（別居中を含む）から、次の（１）～（４）のようなことをされたことがありますか。ここでの「配偶者」には、元配偶者（離別・死別した相手）も含みます。（○は各項目に１つ）（P.113）

配偶者からのDVの経験について、「①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた」ことがあるのは女性 9.5%、男性 5.2%、「②人格を否定するような暴言、無視する、なぐるふりをして脅すなどの精神的ないやがらせを受けた」ことがあるのは女性 18.3%、男性 11.7%、「③生活費をもらえない、お金の使い道を細かく管理するなどの経済的ないやがらせを受けた」ことがあるのは女性 6.5%、男性 2.4%、「④あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された」ことがあるのは女性 9.3%、男性 2.8%となっています（図表Ⅲ-1-6-61～図表Ⅲ-1-6-73）。

⑤DVを相談したか

問 15 あなたはそのことをどこ（だれ）かに相談しましたか。（○は1つ）（P.118）

DVを相談したかについては、「相談した」が女性 27.6%、男性 8.9%、「相談しなかった（できなかった）」が女性 55.8%、男性 71.4%となっています（図表Ⅲ-1-6-74）。

⑥DVの相談先

問 15-1 あなたはそのことをどこ（だれ）に相談しましたか。（○はいくつでも）（P.120）

DVの相談先については「友人・知人」が女性が 66.7%、男性は 80.0%で最も高くなっています（図表Ⅲ-1-6-77）。

⑦DVを相談しなかった理由

問 15-2 どこ（だれ）にも相談しなかった、できなかった理由は何ですか。（○はあてはまるものすべて）（P.122）

DVを相談しなかった理由については「相談するほどのことではないと思ったから」が女性で 41.8%、男性で 65.0%で最も高くなっています（図表Ⅲ-1-6-79）。

⑧DVの相談推奨先

問 16 もしも、あなたの友人や知人が、配偶者あるいは恋人から暴力を受けているとしたら、あなたはどの窓口で相談することをすすめますか。（○はいくつでも）（P.124）

DVの相談推奨先は、女性は「警察」が 59.9%、次いで「枚方市配偶者相談支援センター（ひらかた DV 相談室）」が 59.6%、男性は「警察」が 69.0%で次いで「枚方市配偶者相談支援センター（ひらかた DV 相談室）」が 58.1%と高くなっています（図表Ⅲ-1-6-81）。

⑨DVについての考え

問 17 配偶者・パートナーや恋人からの暴力（DV）に関して、次のような意見があります。あなたの考えに近いものを選んでください。（○はいくつでも）（P.126）

DVについての考えについては、男女とも「どんな理由があろうと暴力をふるう人が悪い」（女性 82.4%、男性 67.3%）が最も高く、次いで「暴力をふるう人は、普段から他の人たちに対しても暴力的である」（女性 15.9% 男性 23.8%）となっています。（図表Ⅲ-1-6-83）。

⑩セクシャル・ハラスメントの接触経験

問 18 あなたは、最近3年の間に、職場や学校、地域などにおいて、次のようなことをされた、もしくは見聞きしたことがありますか。（○はいくつでも）（P.130）

セクシャル・ハラスメントの接触経験については、女性 60.8%、男性 69.0%が「されたこと、見聞きしたことはない」と回答しています。接触経験のある人の中では、男女とも「結婚しないの？」や「子どもはまだ？」など、プライベートなことをたびたび聞く」（女性 18.1%、男性 11.7%）が最も高く、次いで「性的な冗談や質問、卑猥な言葉をかける」（女性 9.3%、男性 10.5%）となっています。（図表Ⅲ-1-6-86）。

⑪性的マイノリティの認知度

問 19 あなたは性的マイノリティ（L G B T Q 等）という言葉を知っていますか。（○は 1 つ）（P.133）

性的マイノリティの認知度について、『意味を知っている』は女性 77.0%、男性 78.2%となっています。性年代別で見ると『意味を知っている』の割合が最も低いのは、70 歳以上の女性（46.0%）となっています（図表Ⅲ-1-6-89～図表Ⅲ-1-6-91）。

⑫性的マイノリティ支援施策の認知度

問 20 枚方市が行っている L G B T Q 等の性的マイノリティの方への支援施策について、あなたが知っているものをお答え下さい。（○はいくつでも）（P.134）

性的マイノリティ支援施策の認知度については、「パートナーシップ宣誓制度」が女性 16.9%、男性 12.1%となっていますが、「1 つも知らない」が女性 62.0%、男性 71.8%と最も高くなっています（図表Ⅲ-1-6-92）。

（7）困難な問題を抱える女性に関する法律について

①効果的な支援策

問 21 あなたは、困難な問題を抱える女性に対する支援として、どのような支援が効果的であると思いますか。（○はいくつでも）（P.136）

困難な問題を抱える女性に対する効果的な支援策は、男性女性ともに「気軽に立ち寄れる居場所の提供」が最も高く、女性 62.0%、男性 55.2%となっています。また男性は「電話相談や面談」も 55.2%と同率で最も高くなりました（図表Ⅲ-1-7-1）。

2 若年調査

（1）回答者の属性

①性別

あなたの性別は。（○は 1 つ）（P.149）

「女性」が 53.5%で最も高く、次いで「男性」が 44.7%と続いています（図表Ⅲ-2-1-1）

②年齢（16～22 歳）

あなたの年齢は。（記入日の時点で）（○は 1 つ）（P.149）

女性では「17 歳」と「20 歳」が 15.9%で同率で高く、次いで「21 歳」が 14.8%、男性では「22 歳」が 19.1%で最も高く、「18 歳」が 15.8%と続いています（図表Ⅲ-2-1-2）

③回答者の職業

あなたの就業状況は。（○は 1 つずつ）（P.150）

回答者の職業については、「学生」が 87.6%で最も高く、次いで「正規雇用で働いている」が 5.9%と続いています。（図表Ⅲ-2-1-3）

また学生の場合の学校種別は大学が 50.7%、高校が 44.0%、専門学校が 3.4%でした（図表Ⅲ-2-1-4）。

（2）男女の平等感と役割分担について

①家庭生活の分担について

問1 あなたの家庭で主に家庭での仕事（家事、子育て、介護）をしているのは誰ですか。（○は1つ）
（P.151）

家庭での仕事を分担しているのは「母」で女性 80.2%、男性 74.3%でした。次いで「父」で女性 8.8%、男性 11.8%でした（図表Ⅲ-2-2-1）。

②性別による役割分担の考えについて

問2 「男は仕事、女は家庭」という男女の役割分担について、あなたはどのように思いますか。（P.153）

男女の役割分担について、『同感しない派（『同感しない』と『どちらかといえば同感しない』の合計）』は女性が 81.3%、男性が 74.3%、『同感する派（『同感する』と『どちらかといえば同感する』の合計）』は女性が 12.6%（同感するは 0%）、男性が 20.4%と『同感しない派』が大きく上回っています（図表Ⅲ-2-2-3）

③性別による役割分担を支持する理由

（問2で「1. 同感する」「2.どちらかといえば同感する」とお答えの方に）問2－1 そう思う主な理由は何ですか。（○は1つ）（P.155）

性別による役割分担を支持する理由については、女性は「家族を養うのは男性の責任で、子育てや夫の世話は女性の責任だから」が最も高く 26.1%、次いで「男性は仕事、女性は家事・育児に向いているから」「女性は仕事を持っても不利な条件におかれるから」が 17.4%と同率で高く、男性は「男性は仕事、女性は家事・育児に向いているから」が最も高く 35.5%、次いで「夫婦の役割をはっきりと分ける方が仕事も家庭もうまくいくから」が 22.6%となっています（図表Ⅲ-2-2-4）

④子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいという考え方について

問3 「子どもが小さいうちは、母親は仕事をしないで、育児に専念したほうがよい」という考え方について、あなたはどのように思いますか。（○は1つ）（P.156）

子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいという考え方について、『同感する派（『同感する』と『どちらかといえば同感する』の合計）』は女性は 40.1%で男性は 45.4%、『同感しない派（『同感しない』と『どちらかといえば同感しない』の合計）』は女性で 56.0%、男性で 47.3%と『同感しない派』が上回っています（図表Ⅲ-2-2-6）

⑤子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいと思う理由

（問3で「1. 同感する」「2.どちらかといえば同感する」とお答えの方に）問3－1 そう思う主な理由は何ですか。（○は1つ）（P.158）

子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいと思う理由については、男女とも「子どもの健全な成長に必要だから」（女性 39.7%、男性 55.1%）が最も高く、次いで「自分自身がそう

した、そうされたから」(女性 34.2%、男性 26.1%) となっています(図表Ⅲ-2-2-8)

⑥意思決定職になる意向

問4 将来、仕事において、組織の意思決定ができる職(経営者や組織の管理職)になりたいと思いますか。(P.159)

組織の意思決定ができる職になりたいかについては、「なりたい」女性は 31.3%、男性は 49.3%でした(図表Ⅲ-2-2-10)

(3)暴力・人権について

①恋人同士の間でのDVだと思ふ行為

問5 恋人同士の間で次の(1)～(6)のようなことが行われた場合、あなたは、これらが暴力にあたると思いますか。(P.161)

恋人同士の間でのDVだと思ふ行為について、「⑥相手の合意を得ないで、一方的に性行為を行う」が『どんな場合でも暴力に当たる』と思うのは女性 93.4%、男性 90.1%で最も高く、「③頻繁に携帯で電話をかけてきて、場所や会っている人のことを尋ねる」が『暴力に当たるとは思わない』のは女性 19.2%、男性 28.9%で最も高くなっています(図表Ⅲ-2-3-1～図表Ⅲ-2-3-12)

②デートDVの認知度

問6 あなたは「デートDV」という言葉を知っていますか。(P.168)

デートDVの意味を知っているのは女性 63.2%、男性 54.6%でした(図表Ⅲ-2-3-14)

③交際相手からのDVの経験

交際相手がいる(いた)場合

問7 あなたはこれまでに交際相手から次の(1)～(3)のようなことをされたことがありますか(P.169)

交際相手からのDVの経験について、「①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた」ことがあるのは女性 2.1%、男性 5.6%、「②人格を否定するような暴言、無視する、なぐるふりをして脅すなどの精神的ないやがらせを受けた」ことがあるのは女性 9.6%、男性 2.8%、「③あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された」ことがあるのは女性 10.7%、男性 2.8%となっています(図表Ⅲ-2-3-16～Ⅲ-2-3-22)

④配偶者間でDVだと思ふ行為

問8 配偶者間で次の(1)～(10)のようなことが行われた場合、あなたはこれらが暴力にあたると思いますか。(P.173)

配偶者間でDVだと思ふ行為について、「⑧なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたり、ひきずりまわしたりする」が『どんな場合でも暴力に当たる』と思うのは女性 97.3%、男性 94.1%で最も高くなっています。「⑥相手のお金を取り上げたり、預貯金を勝手におろしたりする。お金の使い道を細かく管理する。」が『どんな場合でも暴力に当たると思う』は女性 80.8%、男性 61.8%、「⑦だれのおかげで、

お前は食べられるんだ」、「かいしょうなし」などと言う」は女性 88.5%、男性 70.4%で、これらは男女での差が見られます（図表Ⅲ-2-3-23～Ⅲ-2-3-42）

⑤配偶者からのDVの経験

問 9 あなたは、過去 1 年間に配偶者（別居中を含む）から、次の（１）～（４）のようなことをされたことがありますか。ここでの「配偶者」には、元配偶者（離別・死別した相手）も含まれます。（○は各項目に 1 つ）（P.184）

配偶者からのDVの経験について、「①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた」ことがあるのは女性 27.3%、男性 0.0%、「②人格を否定するような暴言、無視する、なぐるふりをして脅すなどの精神的ないやがらせを受けた」ことがあるのは女性 9.1%、男性 0.0%、「③生活費をもらえない、お金の使い道を細かく管理するなどの経済的ないやがらせを受けた」ことがあるのは女性 9.1%、男性 12.5%、「④あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された」ことがあるのは女性 27.3%、男性 25.0%となっています（図表Ⅲ-2-3-45～図表Ⅲ-2-3-53）

⑥DVを相談したか

問 10 あなたは恋人や配偶者からの暴力を受けたときにどこ（だれ）かに相談しましたか。（P.190）

DVを相談したかについては、「相談した」が女性 33.3%、男性 28.6%、「相談しなかった（できなかった）」が女性 66.7%、男性 71.4%となっています（図表Ⅲ-2-3-54）

⑦DVの相談先

問 11-1 あなたはそのことをどこ（だれ）に相談しましたか。（P.192）

DVの相談先については女性は「家族・親戚」で 66.7%、男性は「枚方市配偶者暴力相談支援センター「ひらかたDV相談室」と「友人・知人」がともに 50.0%で最も高くなっています（図表Ⅲ-2-3-56）

⑧DVを相談しなかった理由

問 11-2 どこ（だれ）にも相談しなかった、できなかった理由は何ですか。（P.194）

DVを相談しなかった理由については女性は「自分にも悪いところがあると思ったから」で 41.7%、男性は「相談するほどのことではないと思ったから」で 100.0%で最も高くなっています（図表Ⅲ-2-3-58）

⑨DVの相談推奨先

問 12 もしも、あなたの友人や知人が、配偶者あるいは恋人から暴力をうけているとしたら、あなたはどの窓口で相談することをすすめますか。（P.196）

DVの相談推奨先は、「警察」が女性 70.3%、男性 72.4%で最も高くなっています（図表Ⅲ-2-3-60）

⑩DVについての考え

問 13 配偶者・パートナー、あるいは恋人からの暴力（DV）に関して、次のような意見があります。あなたの考えに近いものを選んでください。（P.198）

DVについての考えについては、男女とも「どんな理由があろうと暴力をふるう人が悪い」（女性 76.9%、

男性 61.8%) が最も高く、次いで「暴力をふるう人は、普段から他の人たちに対しても暴力的である」(女性 23.1% 男性 27.0%) となっています。(図表Ⅲ-2-3-62)

⑪性的マイノリティの認知度

問 14 あなたは性的マイノリティ (LGBTQ 等) という言葉を知っていますか (P.201)

性的マイノリティの認知度について、『意味を知っている』は女性 89.6%、男性 77.6%となっています。性年代別で見ると『意味を知っている』の割合が最も低いのは、学生以外の男性の 71.4%となっています(図表Ⅲ-2-3-64)

⑫性的マイノリティ支援施策の認知度

問 15 枚方市が行っている LGBTQ 等の性的マイノリティの方への支援施策について、あなたが知っているものをお答えください。(P.202)

性的マイノリティ支援施策の認知度については、「パートナーシップ宣誓制度」が女性 20.3%、男性 12.5% となっていますが、「1 つも知らない」が女性 73.1%、男性 74.3%と最も高くなっています(図表Ⅲ-2-3-66)

(4)困難な問題を抱える女性に関する法律について

①効果的な支援策

問 16 あなたは、困難な問題を抱える女性に対する支援として、どのような支援が効果的であると思いますか。(P.204)

困難な問題を抱える女性に対する効果的な支援策は、「気軽に立ち寄れる居場所の提供」が女性 58.8%、男性 55.9%と最も高くなっています(図表Ⅲ-2-4-1)

3 小中学生調査

(1)回答者の属性

①性別

あなたの性別は。(○は 1 つ)

<小学生問 9・中学生問 11> (P.211)

小学生では「女子」が 49.9%で最も高く、次いで「男子」が 45.9%、「答えない」が 3.2%と続いており、中学生では「女子」が 52.1%で最も高く、次いで「男子」が 45.6%、「答えない」が 2.1%と続いています(図表Ⅲ-3-1-1)。

(2)家庭生活について

①家で行っている家事

あなたが、家でしていることを教えてください。(複数選べます)

<小学生問 1・中学生問 1> (P.212)

家で行っている家事について男女別でみると、最も割合が高いのは、小学生女子は「食事の後片付け」

(48.7%)、小学生男子は「家の仕事の手伝い」(42.6%)、中学生は「自分の部屋の掃除」(女子 63.8%、男子 52.9%)となっています(図表Ⅲ-3-2-1)。

②主に家事や子育てを行っている人

家で、主に家事(料理・そうじ・洗たくなど)や子育てをしているのはだれですか。(複数選べます)
<小学生問2・中学生問2> (P.215)

主に家事や子育てを行っている人について、全体では、いずれの年代も「母」の割合が最も高く(小学生 93.8%、中学生 98.2%)、次いで「父」(小学生 54.8%、中学生 41.9%)の割合が高くなっています(図表Ⅲ-3-2-2)。

(3)性別による役割分担の考えについて

①家事はだれがするのが一番よいと思うか

あなたは、料理・掃除・洗濯などの家事は、だれがするのが一番よいと思いますか。(1つ選んでください)
<小学生問3・中学生問3> (P.217)

家事はだれがするのが一番よいと思うかについて男女別でみると、いずれの年代でも「男の人と女の人が協力してするのがよい」が最も割合が高くなっています。小学生は女子(83.2%)が男子(77.3%)よりも高く、中学生は女子(85.7%)が男子(80.7%)よりも高くなっています(図表Ⅲ-3-3-1)。

②子育てはだれがするのが一番よいと思うか

あなたは、子どもが小さいときの子育ては、だれがするのが一番よいと思いますか。(1つ選んでください)
<小学生問4・中学生問4> (P.219)

子育てはだれがするのが一番よいと思うかについて男女別でみると、いずれの年代でも「男の人と女の人が協力してするのがよい」が最も割合が高くなっています。小学生は女子(76.9%)が男子(69.8%)よりも高く、中学生は女子(84.9%)が男子(75.4%)よりも高くなっています(図表Ⅲ-3-3-2)。

③お金を稼ぐ仕事はだれがするのが一番よいと思うか

あなたは、お金をかせぐ仕事を、だれがするのが一番よいと思いますか。(1つ選んでください)
<小学生問5・中学生問5> (P.221)

お金を稼ぐ仕事はだれがするのが一番よいと思うかについて男女別でみると、いずれの年代でも「男の人と女の人が協力してするのがよい」が最も割合が高くなっています。小学生は女子(75.6%)が男子(66.2%)よりも高く、中学生は女子(76.8%)が男子(59.9%)よりも高くなっています(図表Ⅲ-3-3-3)。

④勉強と家事について

勉強と家事について、家族はどのような考えを持っているとあなたは思いますか。また、自分はどう考えているかそれぞれ答えてください。<小学生問6・中学生問6> (P.224)

勉強と家事についての家族の考えについて男女別でみると、最も割合の高いのは、いずれの年代も「勉強も料理や掃除などの家事も両方するのがよい」(小学生女子 62.8%、小学生男子 54.6%、中学生女子 55.5%、

中学生男子 51.1%) となっています。

また、勉強と家事についての自分の考えについて男女別でみると、最も割合の高いのは、いずれの年代も「勉強も料理や掃除などの家事も両方するのがよい」(小学生女子 69.5%、小学生男子 61.3%、中学生女子 67.3%、中学生男子 59.6%) となっています(図表Ⅲ-3-3-4)。

⑤「男は○○」「女は○○」と言われた経験

あなたは、たとえば「男の子は強く・泣くな」や「女の子はやさしく・行儀よくしなさい」など、「男は○○」、「女は○○」のように言われたことがありますか。(1つ選んでください) <小学生問 7・中学生問 7> (P.228)

「男は○○」「女は○○」と言われた経験について男女別でみると、『言われる(言われた)』(「よく言われる(言われた)」と「ときどき言われる(言われた)」の合計)は、小学生女子が 25.9%、小学生男子が 26.8%、中学生女子が 37.0%、中学生男子が 35.6% となっています(図表Ⅲ-3-3-6)。

⑥「男は○○」「女は○○」と言われた理由

どんなことについて言われたことがありますか。(複数選べます) <小学生問 7-1・中学生問 7-1> (P.230)

「男は○○」「女は○○」と言われた理由について男女別でみると、女子は小中学生ともに「言葉づかい」(小学生女子 60.4%、中学生女子 67.5%) の割合が最も高く、男子は「泣いたとき」(小学生男子 52.6%、中学生男子 55.6%) の割合が最も高くなっています(図表Ⅲ-3-3-7)。

⑦「男は○○」「女は○○」とだれに言われたか

それはだれに言われましたか。(複数選べます) <小学生問 7-2・中学生問 7-2> (P.233)

「男は○○」「女は○○」とだれに言われたかについて、小学生女子は「母」が 73.6%、小学生男子は「父」が 54.5%、中学生女子は「母」で 79.9%、中学生男子は「父」が 54.9% と最も高くなっています(図表Ⅲ-3-3-8)。

⑧「男は○○」「女は○○」と言われたときの気持ち

あなたは言われたとき、どのような気持ちになりましたか。(1つ選んでください) <小学生問 7-3・中学生問 7-3> (P.236)

「男は○○」「女は○○」と言われたときの気持ちについて男女別でみると、小学生では「いやな気持ちがした」(小学生女子 41.1%、小学生男子 37.8%) の割合が最も高く、中学生では女子は「いやな気持ちがした」(42.0%)、男子は「何とも思わなかった」(44.4%) の割合が最も高くなっています(図表Ⅲ-3-3-8)。

(4)暴力・人権について

①男女交際の関係についてどう思うか<中学生>

あなたは、恋人同士の間で次の（１）～（６）のようなことが行われた場合、その関係をどのように思いますか。 <中学生問 8> (P.238)

男女交際の関係についてどう思うかについて中学生では、「へんだと思う」と回答した人の割合は、「⑤相手がいやがっているのに無理やりキスしたり、体をさわったりする」が 95.2%で最も高く、次いで「⑥別れ話をしてもしつこくつきまとったり、いやな内容のメッセージを送ったりする」が 94.1%、「③友人とのつきあいをいやがったり、禁止したりする」が 85.5%と続いており、各項目とも男女別で大きな差は見られません。（図表Ⅲ-3-4-1～Ⅲ-3-4-7）。

②デート DV の認知度<中学生>

恋人同士の間で起きる暴力のことを「デートDV」といいます。なぐる、けるという体への暴力だけではなく、言葉や態度で怖がらせたり、行動を制限したりすることもデートDVです。あなたは、「デートDV」という言葉を知っていますか。（１つ選んでください） <中学生問 9> (P.246)

デートDVの認知度について全体でみると、「知っている」と回答したのは、中学生女子 36.6%、中学生男子 33.8%となっています（図表Ⅲ-3-4-8）。

③生まれ変わるとしたら男女のどちらがよいか

あなたがもし、生まれ変わるとしたら、男と女のどちらがよいですか。（１つ選んでください） <小学生問 10・中学生問 12> (P.247)

生まれ変わるとしたら男女のどちらがよいかについて、『男子派（『ぜったい男子』と『どちらかといえば男子』の合計）』と『女子派（『ぜったい女子』と『どちらかといえば女子』の合計）』を比べた場合、いずれの年代でも女子は「女子派」が多く、小学生は女子派 41.9%、男子派 20.4%、中学生は女子派 36.6%、男子派 25.0%となっています。

男子は「男子派」が多く小学生は男子派 53.7%、女子派 5.7%、中学生は男子派 48.3%、女子派 7.3%となっています（図表Ⅲ-3-4-9）。

(5)将来について

①将来つきたい仕事

あなたは、将来どのような仕事につきたいと思いますか。（３つまで選んでください） <小学生問 8・中学生問 10> (P.254)

将来つきたい仕事について小学生の女子は「パティシエ・パン職人」が 12.8%、男子は「スポーツ・スポーツ関連」が 31.1%が多く、中学生では女子が「看護師・理学療法士など病院で働く人」が 14.0%、男子は「スポーツ・スポーツ関連」が 22.1%となりました。（図表Ⅲ-3-5-1）